

<読者投稿>

## 忙中少閑

(2015年2月19日)

去る2月15日、所沢市内の小中学校の防音校舎にエアコンを設置するか否かの住民投票が行われ、賛成票が反対票を大きく上回る結果となった。今回の結果に法的拘束力はないものの、藤本正人所沢市長はこの投票結果を真摯に受け止め、エアコン設置に向けて一刻も早い英断を下していただきたい。

そのような中、17日付け読売新聞埼玉版の朝刊に、所沢エアコン問題に関して、川合善明川越市長の個人的見解が掲載された。その見解は、「個人的には、今回の問題について、住民投票は疑問がある。」という内容だ。

所沢市のエアコン問題は、藤本市長が就任以来、自らの判断で決めたことに関心が集まり、その結果、住民投票となったものである。そのことに関し、川合市長が記者会見において自身の考えを述べたことは、甚だ軽率である。一首長が他市の首長に物言いを付けた格好で、こうした発言は不謹慎極まりない。

川越市と言えば古くから城下町として栄え、歴史のあるまちである。そうしたところの首長はある面、品格がありかつ知性の備わった首長でなければならないことは、言うまでもない。公の場において行政のトップに立つ人間が、一言発言すれば瞬く間に広まり、公人も私人も関係なく、その発言には責任を持たなければならない立場にある。それは、非常に重要なことなのである。

川合市長は現在2期目で、行政経験が無いまま川越市長に就任したということである。市長就任以来、これまでに様々な場面において物議を醸しているが、重要な局面における行政経験の無さが、今回の失言とでも言うべき個人的見解に至ったのではあるまいか。

川越市在住者として、こうした発言をすることは一市民として不快であり、また所沢市長や所沢市民に対しても誠に失礼な発言で、川合市長に対し猛省を促したい。

行政調査新聞読者より